

様式

技術名称	最新モデルを用いた大気汚染予測技術	技術の分類	環境	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	なし
会社名等	一般財団法人 日本気象協会	担当者	森 康彰	連絡先	03-5958-8152
技術の概要	従来の大気汚染予測技術で予測できなかった光化学オキシダントやPM2.5次粒子を非定常型物理モデルである気象モデルWRFと大気汚染モデルCMAQにより予測することにより、船舶排ガスが周辺地域に及ぼす影響を評価する技術	添付資料	パンフの有無	あり	
			その他の資料	なし	
技術の特徴	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 従来の予測手法(解析解型プルームモデル)では再現できない化学反応による大気汚染(光化学オキシダントなど)を再現し、PM2.5の二次粒子濃度も計算。 最新の気象モデルWRFと大気質モデルCMAQを採用 東アジア域からの連携(ネスティング)により越境汚染と都市汚染を解析 航行・係留船舶が排出する汚染物質(NOx、SOx、PM、VOC)が周辺地域の大気環境に及ぼす影響を評価 東アジア広域オキシダント予測(当日～明日の予測)を提供可能。 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年平均などの長期平均値では、計算時間が従来より必要。 	その他	<p>活用に当たっては、以下の留意が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> PM2.5はモデル研究上の課題も多く、十分な再現性を得ていない。 		

※複数の技術について発表をご希望の場合は技術ごとに記載願います。